

第8章 河道特性

8-1 河道特性

源流から大日井堰までの六角川中・上流部は、川幅は約 10～60m で、高水敷はほとんどない単断面河道である。河床勾配は約 1/60～1/1,030 で、河床は砂、礫、中礫で構成されている。

大日井堰から六角川河口堰までの六角川下流部は、川幅は約 45～320m で下流側ほど広く、高水敷は約 10～20m で狭い。河床勾配は約 1/1,530～1/45,000 と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土～細砂で構成されている。

六角川河口堰から下流の六角川河口域は、川幅は約 200～570m と広いが、高水敷はほとんどない。河床勾配は 1/45,000 程度と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土で構成されている。

源流から中通川合流点までの牛津川上流部は、川幅は約 20～70m で、高水敷はあまり見られない。河床勾配は 1/240 程度と急勾配で、河床は粗礫で構成されている。

中通川合流点から古賀橋下流までの牛津川中流部は、川幅は約 60～120m で、一部区間を除き高水敷はあまり見られない。河床勾配は約 1/480～1/620 で、河床は粗礫で構成されている。

古賀橋下流から六角川への合流点までの牛津川下流部は、川幅は約 80～200m である。河床勾配は約 1/2,600～1/5,600 と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土～細砂で構成されている。



図 8-1 六角川本川及び支川牛津川の河道区分図

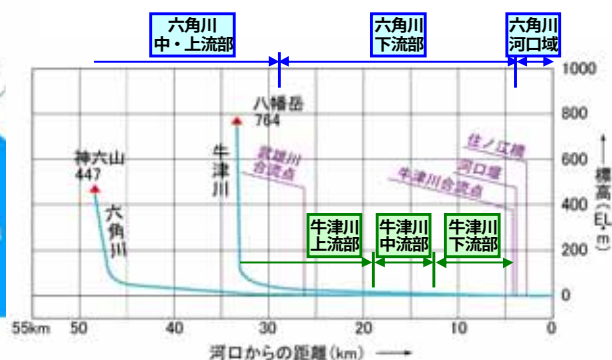


図 8-2 六角川縦断面図

8-2 河道の安定性

1. 河床高の経年変化

昭和 52 年から平成 15 年間の近年 30 ヶ年における平均河床高の変化でみると、順流区間は、多少のばらつきはあるものの概ね安定している。また、感潮区間では、洪水と有明海の潮汐の影響により、ガタ土が移動し、河床が洗掘・堆積を繰り返しているものの、経年的な変化は小さく、概ね安定している。

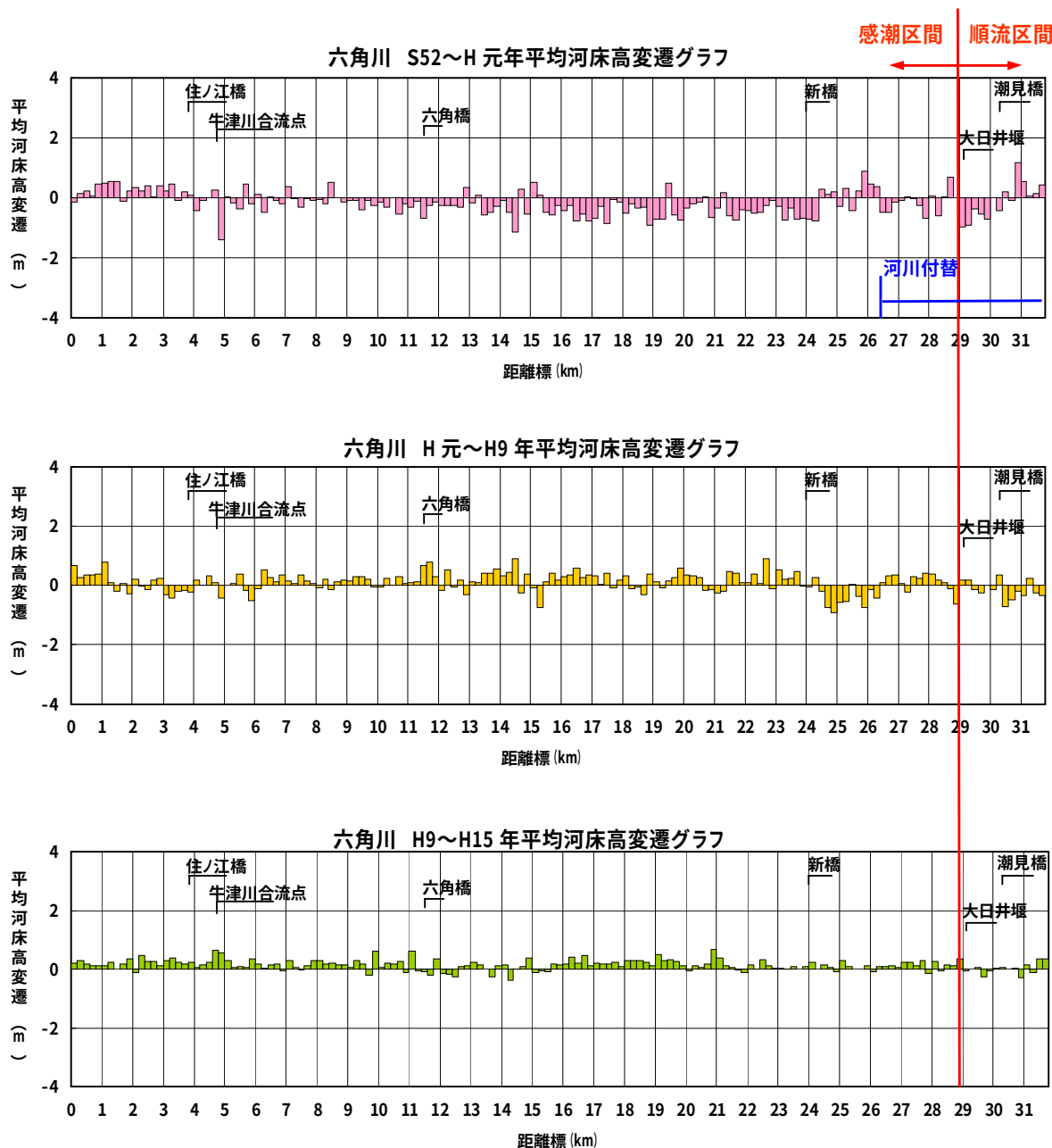


図 8-3 (1) 六角川の河床変動傾向（低水路平均河床高）

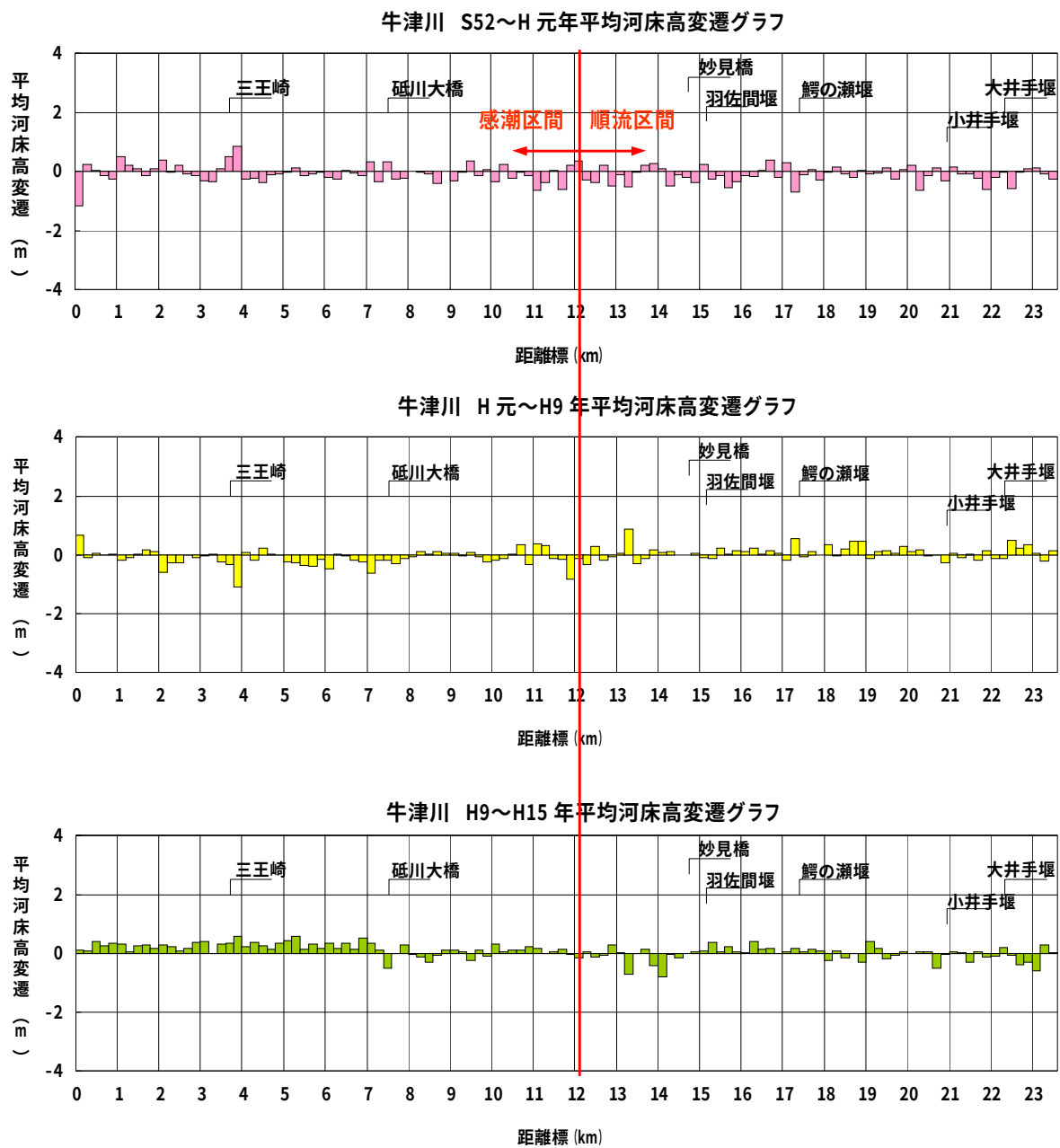


図 8-3 (2) 牛津川の河床変動傾向（低水路平均河床高）

2. 河口部の状況

六角川河口部は、昭和 50 年頃の干拓により川幅が狭くなったが、侵食・堆積の顕著な傾向は見られず、河口閉塞も生じていない。

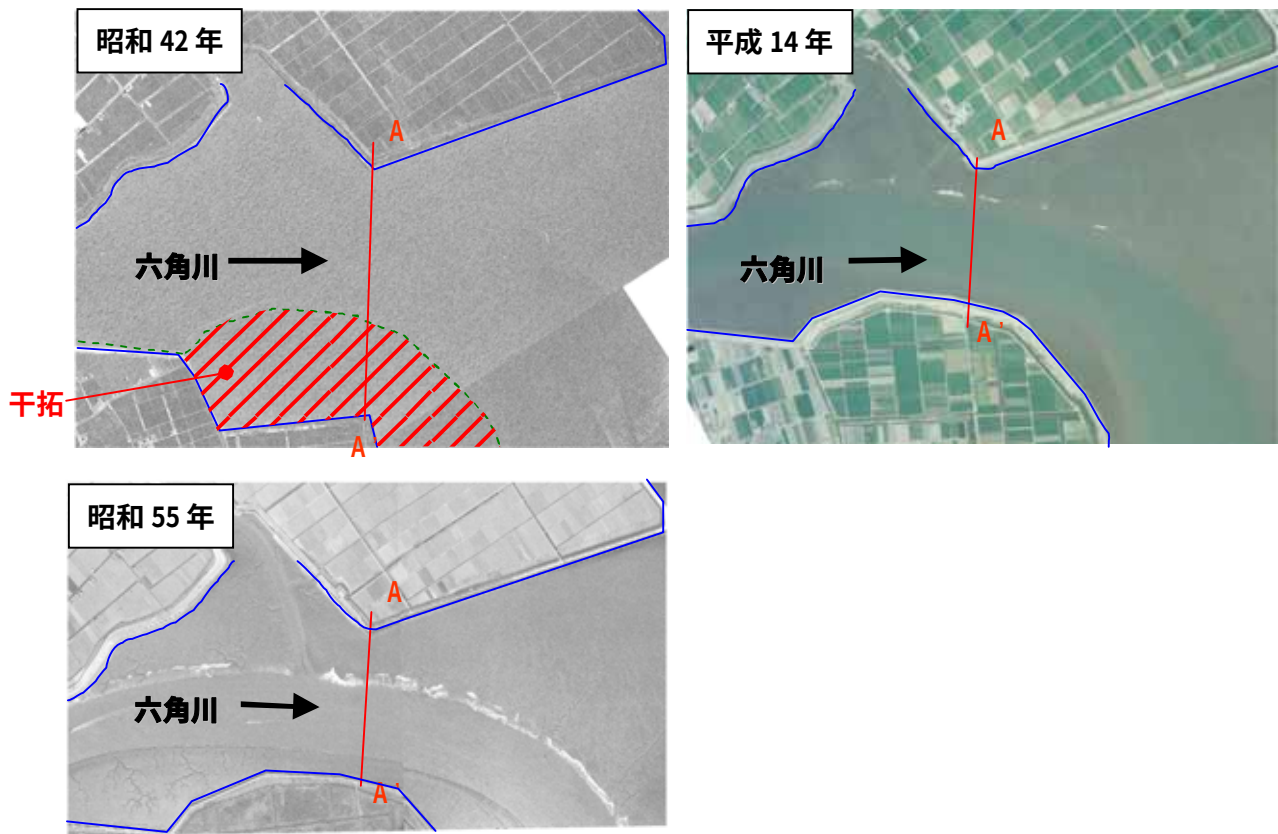


図 8-4 六角川河口部の変遷

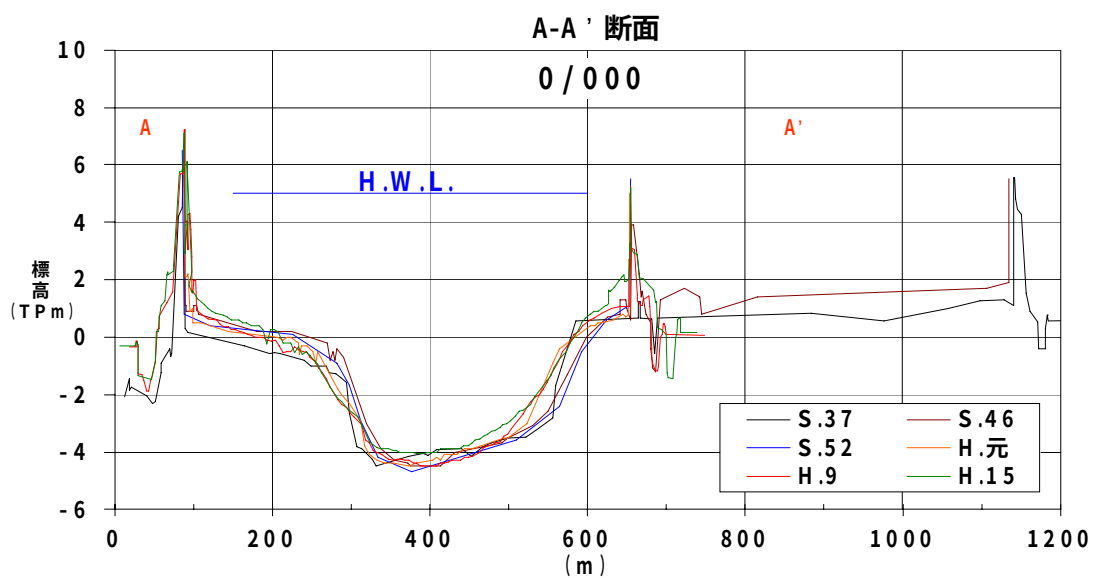


図 8-5 河口部横断変遷図